

番号	39	宮入先生学勲碑 佐賀懸知事 鍋島直紹		
所在地	鳥栖市曾根崎町 基里運動広場前			
災害別	日本住血吸虫病			
目的別	顕 彰		建立年	昭和２７年１０月
特記事項	（参考）「宮入貝供養碑」			



日本住血吸虫病は、主に山梨県甲府盆地、広島県片山地方、筑後川流域に発生し、古くから多くの住民を苦しめてきた。かつてはその原因や感染経路がわからず、地方病、風土病、筑後川流域では「腹満」「ジストマ」などと呼ばれ、一度罹患すると死に至る病として恐れられていた。この病気が、日本住血吸虫という寄生虫により引き起こされることが判明したのは、明治時代になってからで、以後その研究がすすめられたが、その感染経路については長らく不明のままであった。

大正2年（1913）、九州帝国大学医学部の宮入慶之助教授と助手の鈴木稔氏は、佐賀県鳥栖市基里町ではじめて日本住血吸虫の中間宿主となる新種の巻貝を発見、のちにミヤイリガイと名付けられ、以後日本住血吸虫病の撲滅へとつながった。

この碑は、宮入先生の功績をたたえるため、ミヤイリガイ発見の地に近い基里の運動公園の一角に建立されたものである。

なお、宝満川を挟んだ対岸の福岡県久留米市宮の陣には、宮入貝供養碑が建立されているので、併せて紹介したい。

「宮入先生学勲碑　大正二年九州大学教授宮入慶之助先生は、此附近の水溝に棲む一種の小巻貝俗称宮入貝が日本住血吸虫の中間宿主であることを発見せられた。従って、此の貝の撲滅こそ本吸虫病豫防の根本策であることが明らかとなり福岡佐賀廣島山梨等の流



行地に於ける惨害も年々激減しつつある実情である。猶本病類似の疾患は中華民國亜弗利加並南亜米利加にも見られるのであるが其病原吸虫の中間宿主も之に倣って相次いで発見せられ此等地方に住む幾百万の人畜も亦等しくこの発見の恩恵に浴するに至った。

宮入先生は昭和二十一年四月六日、八十四歳の高齢を以って福岡に於いて逝去せられた。今回此地方の町村相謀り、永く先生の学勲を記念すると共に住民の限りなき感謝の情を表する為に茲に此碑を建設するものである。

昭和二十七年十月　門弟　大平得三　撰並書」



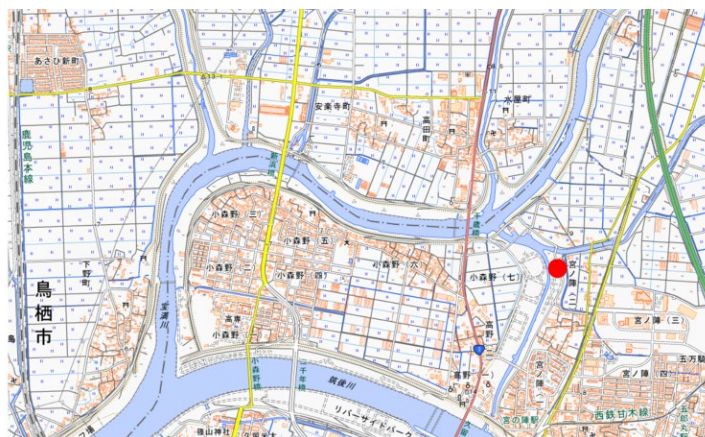
国土地理院　電子国土 Web

(参考) 宮入貝供養碑 (生息最終確認の地) 福岡県久留米市宮の陣



「我々人間社会を守るために筑後川流域で人為的に絶滅に至らされた宮入貝（日本住血吸虫の中間宿主）をここに供養する 平成12年（西暦2000年）3月建立 筑後川流域宮入貝撲滅対策協議会」

ミヤイリガイの発見以降、様々な対策が行われ、昭和51年（1976）以降、佐賀県で、昭和55年（1980）以降は福岡県でも患者の発生は見られなくなった。このため、平成2年（1990）3月、筑後川流域宮入貝撲滅対策協議会は、日本住血吸虫病の安全宣言を発表。平成12年（2000）3月、同協議会は解散した。



国土地理院 電子国土 Web